

こおろぎ

発行日 2003年 6月 1日 **No.123**
発行元 株式会社
オリジン・コーポレーション
代表取締役：杉井保之
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町 777-1
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187
E-mail origin@ck.tnc.ne.jp
URL <http://www.origin-co.com>

脳の働き (その2)

「脳の働きって、何ですか？」と尋ねられたら何と答えますか？
きっと「考えること」と答える方が多いと思いますが、本当にそうでしょうか？

私の友達には、歩く時にバランスをとること以外に頭を使っていない人が何人かいます。しかし、そうした人の脳も、実はちゃんと仕事をしているのです。

自動車の運転をされる方ならわかると思いますが、最初は、「前をよく見ろ！」「バックミラーを見ろ！」「スピードメーターを見てみる！」と注意され、一生懸命見ようと努力していると「キョロキョロするな！」と怒られていた私が、今では周りに気を配りながら、自然に運転出来るようになっていきます。

子どもの頃、面倒だった歯磨きも、今では当たり前になっています。このように、脳の一番の仕事は、私たちの行動を習慣化して楽にすること、つまり「考えなくすること」なのです。

一旦生活のレベルを上げてしまうと、元に戻ただけで苦しく感じるのも、こうした理由からです。このような脳の働きを頭に入れておくと、生き方のコツが見えてくる気がします。

「脳の働き (その1)」で書いたように、普通、誰も継続は苦手なものです。しかし、その壁を乗り越えてしまえば、習慣化されて、苦しくなくなっていくのです。

つまり、継続できない壁さえ越えてしまえば、そこには広々とした平原が待っているのです。

これまで多くの方の相談に乗ってきた体験から、能力もあり、よく努力しているのに思うような結果が出ない方達の多くは、こうした脳の働きを無視している人が多い気がします。

「一つのことを完結しない」のです。

どんなに器用な人でも、一つ一つを完結しないまま、あれこれ行動を始めたらバラバラになるのは当然のことです。本当に急ぐのなら、一つ一つをしっかりと身につけ、完結させることが、一番の早道だろうと思うのですが、気の多い人や成果を急ぐ人は、一つのことをしっかりと完結しないまま、色々なことに手を出していきます。

きっと本人は前に向かっていて気がつかないでしょうが、歩いてきた道にやりかけのことがあれこれ散乱しては、決して「きれいな人生」ではないと思います。

皆さんはどのような習慣を身につけているのでしょうか？

不幸な人は、上手に不満の種を見つけていますし、幸せな人は、今ある幸せや、夢に目を向ける習慣を身につけています。

私達の人生は、自分の習慣によって築かれていくのです。

子どもの時、自由(わがまま)に慣らされた子ども達は、社会や組織に入って幸せに暮らしていけるのでしょうか？

最近では死語となった「躰」は、子ども達が幸せに暮らすための習慣づけをしようとしたものだったと思います。

私は、幸せに生きる生き方や考え方を身につけていきたいと思っています。そして子どもの頃、親から聞いた「シンドバッドの冒険」や「シルクロードの話」のように、子ども達に人生の面白さや素晴らしさを語りたいと思うのです。

私のところへは元気をなくした子が来たりしますが、私は彼らにCDデビューしたときのこと、海外に行って楽しかったこと、トリアスロンの苦しさや楽しさなどを、目を輝かせて話します。すると、その子たちもいつの間にか夢を語り出したりするものです。

どんな理屈を言うより、自分の人生に夢を見、未来に期待してくれたら人は元気になれると思うのです。

皆さんは、最近、目を輝かせて夢を語っていますか？

「こんな生き方って素敵だね！」「こんなことしてみたいんだ！」と夢を語り、そこに向かう姿こそ、何よりの教育であり、自分への「よい刺激」だと私は思っています。

☆☆ お便りコーナー ☆☆

先日、「アジアの子ども達」という番組で、厳しい現実の中で生きる子ども達が紹介されていましたが、その目は輝き、将来に対して希望に満ち溢れていました。ところが先日まで職場体験に来た高校生の子ども達には、将来なりたいたいものもなく、「ブーでいい」と言っていました。(「ブー」というのは、クマのブーさんのことではなく、「ブータロウ」のことです。)

職場体験を幼稚園にしたのも「子どもと遊ぶだけで楽しそうだから」という理由でしたが、子ども達と遊んでも、子ども達より体力・持久力がないのです。

この子ども達も園児のころは、元気だったのだと思います。是非、生きていること、働くこと、自分の行動すべてに気力をもってもらいたいと思いました。

この子ども達もやがて親になっていきます。この子ども達を育てた親、そしてこの子ども達。日本の未来はどうなるのだろうか。うと暗い気持ちになりました。

少しでも園の子ども達から活力・パワーをもらって戻ってくれたら嬉しいのですが……。

七一歳の方の記事を読んで、非常に考えさせられました。買ったときは高かったのですが、手入れをせず古くなっていく我が家の車と自分がダブり、実際の自分の評価額はいくらかかと考えてしまいました。

子ども達は、家でまで宿題をしているのに、私は偉そうな顔をしてビールを飲んでいられるばかりです。自分が少し恥ずかしくなりました。車としての価値はどうかわかりませんが、せめて骨董品としての価値が出るように磨いてみようと思いました。

まずは良い本を読んで、自分に「良い刺激」を与えます。

勉強会ありがとうございました。

知識やスキルなど、上へ上がる努力はしても、譲り合い、幸せに暮らす生き方を学ぼうとする人が少ないのは、何故なのでしょう？ これでは毎い合うばかりですね。

私自身もこれまで会社の経営同様、目先のことばかり追っていて、社員の将来や子どもへの姿など何も考えて来ていなかった気がします。

次回は、是非、東京の勉強会に参加させて下さい。

かつては暴力団の街として、二、三年前から暴走族の街として、全国に名をとどろかせた広島市内が少しずつですが、変わろうとしています。

それは「掃除」を通してです。「掃除」にあんな力があつたとは、ビックリです。

本部長は、自ら吉田高校のトイレ掃除にも参加されましたが、広島県警の皆様の努力はものすごく、フラワーフェスティバルでの県警の方と暴走族の少女達の踊りを県警本部長もじつと観ていらつしやいました。

今、広島地方は「掃除」で燃えています。特に、広島市内東区においては区長さん自ら率先して掃除に参加され、荒廃している学校にトイレ掃除を実施して立て直していこうと頑張つていらつしやいます。

安西高校は、とても良い手本となつていてと思います。長いこと教師をしてきて、トイレ掃除にこんな力があるとは思いませんでした。頭ではわからないことですね。